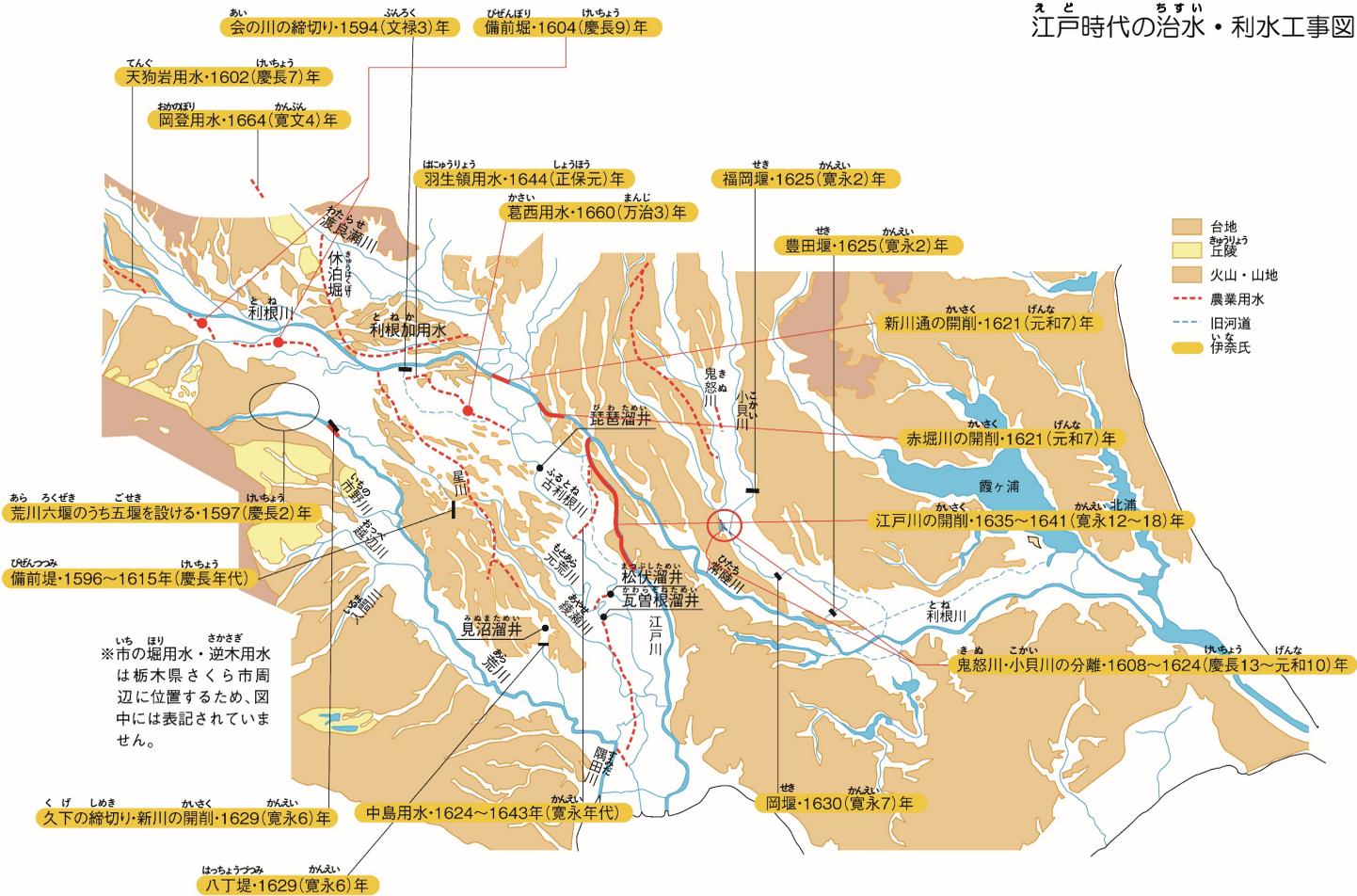


伊奈一族の治水

～江戸水運の土台を築いた忠次・忠治親子～

河川の付け替えや水田地帯の開発を行い、現在の東京の基盤を作りました。

江戸時代の治水・利水工事図



伊奈忠次の像 (羽生領島中領用排水路土地改良区)



熊谷市久下付近を上空より望む

伊奈一族による大改修

江戸時代の1629 (寛永6) 年に計画されたのが、荒川の流れを変えてしまおうという大改修。これは熊谷市久下付近でそれまでの流れを止めて南側に河道を掘り、入間川の支流へと合流させるという大がかりな工事でした。荒川の流れを埼玉平野の東部から離すことで、今まで頻繁におこっていた洪水をなくし、水田地帯を守るとともに新田開発も促進しました。さらには木材を運ぶ舟の道を確認するという目的もあったようです。

この工事を指揮したのが、伊奈忠治で、父親の忠次も利根川の付け替えや荒川に堤防を築いた人として知られています。荒ぶる川の治水に親子二代で立ち向かった伊奈一族の名前は荒川の歴史に深い尊敬とともに今も残っています。

い なただつく
伊奈忠次

忠次は江戸周辺の天領の代官頭として治水事業や用排水路の整備に治績を残しました。
利根川筋では会の川を1594（文禄3）年に締め切り利根川を統合して埼玉県平野東方へ移し、最終的には利根川を銚子へ導く利根川東遷事業に着手しました。
荒川筋では荒川六堰のうち五堰を設け、熊谷扇状地に広がる水田地帯を開発しました。五丁台（桶川市）で綾瀬川を備前堤で締め切り、荒川旧流路を現元荒川に統合し、末流を瓦曽根溜井に導き、埼玉県東南部を開発。現荒川筋ではさいたま市土屋地先に土屋古堤を築き、既にあったと見られる堤を修築して千住（足立区）までの大囲堤にしました。



赤堀川切広之図（東遷事業の様子）

い なただはる
伊奈忠治

伊奈忠治は、兄忠政の死後、赤山（川口市）に陣屋を構え、関東諸代官を統括する関東郡代となり父忠次の事業を実質的に継ぎました。
利根川東遷事業は佐波（大利根町:現加須市）・栗橋間の新川通開削、栗橋から常陸川につなぐ赤堀川の開削に着手。江戸川の上流部約20kmの開削を重臣小島庄右衛門に担当させ、1641（寛永18）年に完成させました。
また、鬼怒川・小貝川の下流部を付け替え改修し分離させました。
荒川筋では荒川（元荒川）を熊谷久下地先で締め切り、現荒川流路の和田吉野川、市野川に付け替え入間川筋に付け替える荒川西遷事業を行いました。
また、木曽呂（川口市）・附島（さいたま市緑区）間に八丁堤を築いて見沼溜井を造成しました。

コラム 埼玉県最古の用水路 ～備前渠用水路～

「備前堀」の愛称で親しまれている備前渠は、1604（慶長9）年に伊奈備前守忠次が江戸幕府の命で開削した埼玉県最古の用水路です。今でも素掘りの所が多く、当時の面影を残しています。

また、2006（平成18）年2月2日には、長い歴史や優れた景観を誇る疎水として「疎水百選」に選定されました。

このほかにも埼玉県内には「備前堤」「備前堀」「備前渠」など備前の名のつく河川や水路が見られますが、これらの名は、伊奈「備前」守に由来しています。



備前渠用水路

アクセス

伊奈忠次墓

交通：JR高崎線「鴻巣駅」下車、徒歩約8分

住所：埼玉県鴻巣市本町8-2-31（勝願寺）



現在の東京の基盤を作るという快挙を成し遂げた伊奈家の人々が眠る

